議　長	会議を再開します。　（午前１０時３０分）
〃	これより、石川議員の一般質問を行います。７番石川議員。
７番 石川議員	皆さんおはようございます。石川でございます。よろしくお願いをいたします。６月に入り、例年のごとく江の川沿線の集中豪雨を心配する季節となってまいりました。昨日、議会と執行部で江の川水防対策調査特別委員会の一環として、瀬尻・久料谷、そして谷地区の治水対策事業の視察を現地に出向き行いました。また、因原地区の内水排除対策事業の進捗状況につきましても、現地にて担当者より説明を受け、意見交換を行ったところです。今年の夏は、今まであったような集中的な豪雨に見舞われないことを、まずは祈りたいと思います。また、仮に起こった時の備えとしては、役場には今までの経験、そして蓄えてきたノウハウがあるわけですので、いかなる事態にも対処できる万全な体制を常日頃から整えておいてほしいというふうに考えます。さて、これからの季節はどちらかといいますと、気の滅入る季節になってこようかと思います。そのような中、梅雨を詠んだ俳句を２作品ご紹介したいというふうに思います。別に私が俳句が得意でも何でもないわけですが、ちょっと紹介をしてみたいというふうに思います。まず最初は、戦後の伝統俳句の中心的存在の飯田隆太俳人の作品です。「抱く吾子も梅雨の重みといふべしや（繰り返し）」。そして明治生まれで、大正・昭和前期の俳人、長谷川春草の作品で、「樹も草もしづかにて梅雨始まりぬ（繰り返し）」。 １世紀約およそ１００年前の俳句とは思われるほどの新鮮さがあるように私は思いますが、皆さんはいかがでしょうか。 それでは、少し前置きが長くなりましたが、一般質問通告書に従い、１項目の質問をいたします。 質問の要旨、１、「本町の観光産業の振興について問う」ものであります。内容、本町の観光振興に対する基本的な考え、また本町独自の近年の取り組み状況及びその効果・実績について問う。また、広域組織である「江の川流域広域観光連携推進協議会」、「 島根県観光連盟石見事務所」の昨年度からの主な取り組みや、その具体的内容を問う。さらに、これらの動きと連携して、町内の既存の施設を有効利用することにより、観光客の増加につながる可能性はないものか尋ねる。以上。
議　長	それでは、石川議員の質問、「本町の観光産業の振興について問う」に対する答弁を求めます。番外名原産業振興課長。
番外名原産業振興課長	石川議員の１項目め、「本町の観光産業の振興について問う」にお答えいたします。本町におきましては、町内に集客力のある観光施設や観光資源が乏しいことから、石見銀山の玄関口として栄えた歴史や中国地方最大の河川

番外名原産業振興課長　である江の川などの豊かな自然環境、また廃線となった旧ＪＲ三江線の線路を活かした体験型の観光コンテンツを充実させていくことや、既存の交流施設である温泉施設「弥山荘」や、かわもと音戯館などの施設の有効活用を図り、交流人口の拡大を図ってまいりたいと考えております。事業の実施に当たっては、町観光協会が自主的な観光事業を展開しており、令和５年度の主な取り組みといたしまして、石見川本駅や旧因原駅を会場に開催されたレールバイクイベントは、計８回で５４３名に乗車いただきました。笹遊里を会場に開催されたかわもとアウトドアイベントでは、観光協会加盟店等が出店され約３００名の来場者で賑わいました。丸山城後の展望台での雲海を眺めながらの天空の朝ごはんイベントでは、外国人も含め計１８名の参加をいただき、観光協会加盟店が提供する温かいスープやパンを楽しみながら、雄大な眺望を楽しまれました。情報発信では、ＳＮＳ（ソーシャルネットワークサービス）などによる、積極的な情報発信や山陽方面でのＰＲ活動などが挙げられます。これらの結果、ＳＮＳの総フォロワー数も３，５７４名となり、イベント参加人数も増えつつあります。次に、観光の広域連携組織である、江の川流域広域観光連携推進協議会では町観光協会が事務局を持ち、令和３年度から邑智郡エリアの魅力を活かした観光コンテンツやイメージの発信、また三江線跡や江の川など地域の資源や文化を活用した事業を通じて、観光交流を支える人づくり、それに携わる事業所の支援や交流人口の拡大を図っております。島根県観光連盟石見事務所の動きといたしましては、石見９市町が連携し、石見エリアの情報発信やスタンプラリーなどの事業展開を行い、山陽エリアを中心に、観光入れ込み客数の増加を図っております。これらの広域組織に参画することにより、誘客やＰＲ等、町単独では取り組めない分野を補えるため、今後も積極的に連携を図り、有効活用してまいりたいと考えております。町内の既存交流施設も町の観光事業とこれらの動きと連動し、誘客を図ってまいりたいと考えております。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　まず、質問の内容が噛み合うよう少し事前通告をしておりますので、よろしく答弁のほうお願いしたいと思います。本町が、将来にわたり発展可能な町であり続けるためには、人口減少問題に対する施策、また地域包括ケアシステム、農林業問題、女子野球構想、そして定住対策等々に加え、地域外からの誘客を推進する観光振興が大変重要であるというふうに考えております。そこで、近年３か年の本町への観光入り込み客数の主な施設ごとの推移、及びその変動の主な要因をどのように分析し、どのように捉えているかについて、まず伺います。

議　長　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　観光入り込み客数につきましては、島根県の観光動態調査がございまして本町もこちらのほうにデータの方、定期的に報告してるとこでございます。それに基づきまして数値のほうを報告させていただきますと、これ各年の１月から１２月の総数、客数となっておりまして、笹遊里で言いますと令和５年度１５２、すいませんで前年のＲ（＝令和）４年度がですね２３９名に対し、令和５年度１５２人、弥山荘が令和４年度２２，３８２人に対しまして、令和５年度が２６，５１９人、音戯館が１３，０２０人に対しまして、令和５年度１４，２１７人、道の駅が令和４年度１２３，９２４人に対しまして、１２９，６５０人となっております。ご承知のとおりコロナが令和４年度もございまして、かなりここまで入り込み客数は減っておりましたけれども、令和５年度、コロナ感染症がですね５類に移行いたしまして、ようやく人流のほうが戻ってきております。大幅な増額ということにはなっておりませんけれども、こういった人流が増えているということをですね、意識しながら取り込みのほうを進めていく必要があるなというふうに認識しております。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　増えている施設もあれば、減っている施設もあるというようなことでございますが、昨日の全協（＝全員協議会）ですかね、いろいろと周辺の公共事業等によって、人の流れが左右されるというようなご答弁もあったかに承知しておりますが、この施設の増減につきましてはですね、やはりそういうことではなしにですね、その施設の努力がいちばんであるというふうに考えてですね、やはりそういう答弁はしないように、ひとつ申し述べて次に移りたいというふうに思います。再々質問でございますが、再質問でございますが、主な施設ということになりますと、先ほど述べられたとおりですね、笹遊里、弥山荘、そして音戯館、インフォメーションセンターかわもと、というふうになるわけですが、その中の弥山荘についてですね、少し質問をしてまいりたいというふうに思います。この近辺にもですね、温泉施設は数多く存在するわけですが、私が決算内容を調べたところですね、どの施設も経営的には非常に苦しい内容であります。弥山荘も例外ではないということでございます。本町はですね、住民への健康増進等を目的にですね、指定管理制度にて運営をしているわけですが、全て指定管理者任せでは、町としての責任は果たしていないというふうに考えます。そこで指定管理者と一緒になって行っているイベント、その他入館者増につながる取り組み、一緒に汗を流していることについて、何かありましたら聞いてみたいというふうに思います。

議　長　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　弥山荘についてのお尋ねでございました。以前はですね、弥山荘のほうも地域活性化センターが指定管理者として運営してた時代にはですね、地域お

番外名原産業振興課長　こし（協力隊）も入れていろんなイベントが組まれていたというふうに私も記憶しております。昨年度はですね、なかなかそのコロナが開けてそういった取り組みにつながってなかったということがまず１点ございまして、こういった先ほども申しましたとおり人流が戻っていった現状でですね、やはり観光協会等、そういった自主的な観光の実施体となるよう組織等、いろいろな施設もそうですけども、連携を図ってですね施設の有効活用を図ってまいりたいというふうに考えております。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　そうするとちょっと具体的なですね、施策ということをちょっと聞けなかったんですけども、私もよくいろんなとこへ行きますけども、弥山荘でもですね、何か軽音楽的な催しがあったりですね、いろいろ、野菜を販売したりいろいろやっておられるんですけども、そういう取組はなかったというふうに、理解していいんですか。

議　長　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　全くなかったということではないんですけれども、例えば観光協会のほうで、アウトドアイベントっていうのを笹遊里のほうでやっていただいております。先ほども、結構な人数が入ったということで報告させていただきましたけれども、こちらにつきましてもですね実際指定管理者は、同じ笹遊里と弥山荘と同じ指定管理者ですので、当然そこの近隣で大きなイベントがあると当然、人の流れで弥山荘にも来るというようなことで、実際その弥山荘のほうで、大きなイベントをやっておりませんけども、間接的にそういう誘客が図れるということで取り組んではおります。以上です。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　また後でも述べるんですけどね、やはりあの大きな施設ではないわけですね。そうすると、いろんなことをやっぱり組み合わせながら、その積み重ねをする努力をやっぱりしていかないと、やはり運営自体はうまく回っていかないというふうに思いますので、その辺ひとつしっかりとした計画をね、立てられるようにお願いをしておきます。それから弥山荘についてもう一遍伺います。温泉施設にはですね、必ず「食の楽しみ」というものがついて回るわけですけども、何か施設のほうなりですね役場のほうと一緒になってですね、食べるものについて食についてですね、行って注文してわくわくするようなものがあるとかですね、私も先ほど言いましたようにいろんなとこ行くんですけども、やはりあるところでは、エイのお造りとかねエイの煮付けとかね、いろんなを食べてみたいなというようなこともあるわけですけども、

７番
石川議員

そういう開発について、一緒に何か努力されとるというようなことがございましたら、お聞かせいただきたいと思います。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

食堂の管理運営業務に当たりましては、募集の仕様書のほうにもですね、地元の農家の契約等によって地元産品の食材を活用した運営を行ってくださいでありますとか、当然、施設の利用促進につながる食材提供ということで、名物料理の開発提供を行ってくださいっていうことが謳ってございますけれども、なかなかちょっとそこまで至ってないのが現状でございます。料理につきましてはですね、一番人気があるのが生姜焼き定食とか、から揚げ定食というふうに聞いておりますが、やはり川本ならではの食の提供ということを意識いたしますと、ちょっと違うのではないかというふうにも感じるところでございます。議員ご指摘のとおりですね、そういった食の楽しみというのは、有効なコンテンツであると思いますので、そういったところを意識して、取り組みのほうを行っていければなというふうに考えております。

議　長

７番石川議員。

７番
石川議員

はい、その辺をしっかり弥山荘の方ともですね、運営者の方ともいろいろ話を詰めてですね、そういう楽しみも想像していっていただきたいというふうに思います。話は少し戻りますけども、冒頭の答弁でも触れられておられますが、三江線が廃止になるまでの観光問題の話題としてはですね、三江線を利用した〇〇（まるまる）でありますとかですね、また歴史を意識した小笠原公の何々というようなフレーズがよく出てきたわけですけども、今現在、観光を考える中でですね、本町の歴史も重要視するというような考え方は存在しているのかどうか、お伺いをします。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

最初の答弁でもお話ししましたが、やはり石見銀山の玄関口と栄えた歴史等いろんな歴史的背景がございますので、そういったものを活かしていきたい、また三江線につきましても、今現状、レールバイク等で鉄道敷を活用したイベントの方やっておりますし、またレールバイクもですねレールバイクだけではなくて、昨年度の実施状況で言いますと、例えばピタ止め世界選手権、レールバイクでですね、いちばん近くの地点で止めるその技術を競い合う競技大会をやったりとかですね、三江線の鉄道インフラ、結構割にこれ私どもちょっとプロではないのではっきりわからない、余りよくわからなかったんですけども、やはり貴重なインフラ資源があるということで、こういった鉄道遺構ツアーというふうな形で、広島を発着してバスツアーも組まれて

番外名原産業振興課長　おります。こういったいろいろな歴史資源がございますので、と言いつつなかなか私どもも知らないこともありますので、そういったところをですね掘り起こして、できるだけその情報発信等に力を入れて行ってまいりたいというふうに考えております。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　今、課長言われましたようにですね、歴史についてはですね、やっぱり一つの流れになってないというふうには私感じておりますので、その辺ひとつもうちょっと研究されてですね、進んでいってほしいというふうに思います。それではちょっと話が移っていきますけども、冒頭申し上げました江の川流域観光連携推進協議会、それとですね島根県観光連盟石見事務所を中心とした広域での動きがあるわけですが、それらに参加してですね活動する中で、実際何を売りにしていくのか、また本町の何を知ってほしいと考えてですね、取り組んでこれからいくのか、その辺もうちょっと踏み込んだ考えをお聞かせいただきたいというふうに思います。

議　長　番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長　本町の何を売りにしていくかというお尋ねでございましたけれども、やはり先ほど言いました歴史を背景としたものですとか、三江線の旧三江線を活用したものですねそういったものをいろんなことございますので、そういった取り組みを広く知ってもらうためには、やはり広域でいろいろと情報発信していくということが肝要であるというふうに考えております。ですのでスタンプラリー等もありますし、そういったですね石見９市町、石見観光振興の関係で言いますと石見９市町が、広域で取り組んでおりますので、広く情報発信も出来ますし、インバウンドに向けたですね取り組みのほうも、こういった広域組織の方が重要になってくると思いますので、江の川流域広域連携推進協議会につきましても本町だけではなかなか観光コンテンツを限られておりますので、江の川流域というようなですね関係性を持った３町が連携し合って、広く観光について情報発信していく、また来年度はですね、来年は大阪万博も予定されておりますので、やっぱりそういった広域な組織で情報発信していくということが必要であろうというふうには感じております。

議　長　７番石川議員。

７番石川議員　課長今申されましたようにですね、広域の連携というのは、やはり大事なんですね。やはり川本町だけ邑智郡だけで、小さい器の中でやっとってもやっぱり限界がありますので、やはり大きく中国地方ですね四国あたりも含めてそういう大きな流れの中でやっていくというのも大切ですので、そういう

７番
石川議員

目線で物事を見ていただいて、こういう協議会に参加をして活躍してほしいというふうに思います。またですね広島市、ここに来てですね、去年あたりから広島市が中心となった流れの中にもですね身を置くことになってきたわけですが、大きな流れの中でですね、ただ単にですね、広島市に流されることのないように進んでいくということがですね、肝要かというふうに考えるわけですが、その辺のちょっと所見もお伺いをしておきます。同じような感じになるんですが、広島市が中心になってそれにも入ってやっていくということで、理解をしておるんですが、その辺をちょっと所見を伺っておきます。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

広域連携組織の加入のことについて言及いただいたというふうに受け止めましたけれども、こちらについてもかなり広いエリアの中で、本町、小さな町ですけれども議員ご指摘のとおりですね、他の自治体と差別化を図れるようなですね取り組みを意識しながら、また一方で神楽とかそういった、共通のもので結びつき等もありますので、そういった取り組みの方をいろいろとうちのほうへ活かしていきたいというふうに考えておりますし、当然有効に活用していきたいというふうに考えております。

議　長

７番石川議員。

７番
石川議員

はい、よろしくお願いしておきます。それでは課長への最後の質問ということになるわけですが、インバウンド、外国人観光客について伺います。私はですね７、８年前でしたかね別の各視点から川本町の観光について質問をしたことがございます。その中でですね執行部からですねインバウンドに対する答弁がありまして、それはですね、ここ２、３年のうちに国内外の動きが見えてくるものと思われますので、それらを精査研究し積極的に川本町版インバウンドの動きを加速させていきたいと思っております、というようないうような回答がございました。しかしそれからの動きを見てみますとですね、途中コロナもあったわけですけども、答弁いただいたような動きには全くなっておりません。都会地の一部では、もう外国人観光客が増え過ぎていろいろと弊害が出ておるですね、規制しなければいけないというところを実際に出てきております。毎日そういう報道がなされております。しかしながら我が町でですね、インバウンドは簡単にできるかというと、そのハードルは非常に高いものがございまして、一朝一夕にはいかないというふうに私も思います。しかしですね、本町にはちょうどよい取っかかりといいますか、江川太鼓さんがですね、数十年にわたって交流されているデンマークの団体がございます。川本町の人情に惚れ込み、川本町の田舎の自然に憧れ、旧入澤荘を購入されてですね、度々、数名の方が来町されているというふうに聞いております。私たちが慢性化して分からない田舎の良さを感じに来られて

７番
石川議員

いるのも一つの要因ではなかろうかというふうに思います。せっかくの民間人による友情あふれる交流ですので、大切に実を結ぶよう努めていかなければいけないというふうには考えております。商工会等も入ってもらってですね、そういう動きも出てきているようですので、是非とも将来にわたって成果が出るような取り組みとしていただきたいというふうに考えておりますが、担当課長のまず意気込みを聞いておきたいと思います。

議　長

番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長

お尋ねがありましたけれども、インバウンドにつきましては、オーバーツーリズムということで特に京都とか、ああいった大きな観光地では深刻化しているという状況の中で、一方でですねオーバーツーリズムも混んだ観光地はたくさんだということで、古きよき日本の原風景ですか、そういったものを見たいということで、特にリピーターの観光インバウンド観光客にとっては結構いろんなところでですね田舎町とかに出向いてるっていう話も聞いております。そういったところでですね、うちも江川太鼓さんがデンマークの方を十数年にわたって、本町のほうで交流されてるというところで、旧入澤荘の方を購入されて、そこを交流拠点にしたいということで、先般もガバメントクラウドファンディングの方を活用されまして、改修の寄附の方を募っておられまして、見事目標のほう達成されております。こういった取り組みの方は承知しておりますので、是非私もこの取り組みをですね、ぜひ有効に活用していきたいというふうに考えております。令和４年度にデンマークの方、今オーナーの方ですけど入澤荘の方が来場された時に、私のほうも直接お会いしてですね立ち会わせていただいて、思いのほうも聞いております。ですので私もその町の活性化のですね起爆剤になりたいという思いは一緒です。デンマークという国なんですけども、世界のビールシェア４位であります。カールスバーグとかレゴブロックとか、あといろんな、アンデルセンですとかいろんなですね有名なものがございます。私、私見ですけども、特にやっぱり食のコンテンツっていうのは、結構誘客の起爆剤になるのでね、誘客ができるコンテンツだと思っておりますので、そういったものをイベントでですね、開催できればなというふうに考えております。町だけの取り組みでは、当然、為し得ないものでございますので、商工会さんですとか観光連盟、その江川太鼓さんもそうですけども、いろんな方とですね連携しながら、こういう取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

議　長

７番石川議員。

７番
石川議員

はい、積極的な答弁であったというふうに私、感じております。しっかりやっていただきたいというふうに思います。それでは副町長に最後お伺いしたいと思いますが、島根県でも県政の一つの柱としてですね、島根の観光と

７番
石川議員

いうものにですね、力を注いでおられるというふうに感じております。本町も同様なわけですが、我が町にはですね、これといって先ほど来ありますように一級の観光地、また景勝地も無いわけですので、石見神楽やですね、江川太鼓また農業体験を交えてですね、民泊であったりと、いろいろ組合せながらですね、いわゆる創意工夫をしなが観光というものを創造していかなければならないわけであるというふうに考えます。これからの本町の方向性について、何か副町長のお考えがありましたら、お伺いをしたいというふうに思います。

議　長

番外藤田副町長。

番外
藤田副町長

はい。観光振興の今後の方向性ということでございますけども、議員ご指摘のとおりですね、本町には大きな集客力があるような施設、資源というのが多くないということが現状だと思います。ただ、言われるように石見神楽ですとか、国際交流に発展してます江川太鼓、そうした江の川流域の歴史文化ですとか、豊かな自然環境こういったものが本町の誇れる資源であると思いますし、そういったものを活かして、また誘客の視点からアレンジして発展させていくということが必要かなというふうに考えます。私ごとではございますけれども、私、平成２３年度から３年間、益田市、益田の市役所に出向しておりました。その当時、中世の食再現プロジェクトというような取り組みが、市内の事業者さんを中心に始まっておりまして、これはどういった取り組みかと申しますと､平安末期からですね戦国時代約４００年にかけて、益田を拠点としておりました、石見最大の漁師であります益田氏、益田うじですね、これが毛利元就に振る舞ったおもてなしの料理を、古文書の記載から再現しようというような試みでございました。当時、まだその活動は始まって間もないものでしたが、食を切り口に歴史文化に触れるというような非常に何か面白い取り組みでございまして、私も個人的な応援団となって、その活動がどういうふうに今後できるかなというようなことをメンバーの皆さんと話し合ったりもしておりました。その後、その活動が着々と継続をされましてですね、今では市内のお寺さんともコラボレーションしまして、お寺で味わえる中世の食、サムライ御膳という名前がついて体験プログラムというふうになっております。そうした活動がまた後押しになりましてですね、令和２年度には、その中世の益田にまつわるそのストーリーが、文化庁の日本遺産に登録されるというまでになったということでございます。今年は１１月に、益田氏の拠点であります七尾城（ななおじょう）などをテーマにしてですね、全国山城サミットというものが益田市で開催されるということを聞いております。こうしたプロセスを見ておりますと、地域にある意味、当たり前のようなものからですね、面白い着眼点を見つけて、それを活動にしていくと、その活動の中から人と人とのつながりですとか、交流が生まれてくる。それが一つのコンテンツとなって、地域の魅力になっていくというようなことかなとい

番外
藤田副町長

うふうに思います。そうした活動されている人たちですとか、その活動そういったものをですね、じっくりと応援していくことが重要なのかなというふうに考えております。また最近は体験型旅行とか近場で手軽に楽しみたい、そんなニーズもあって、期間限定のですね体験型のプログラムを石見全体でプロモーションしていこうというようなことを県のほうで進めておりまして、通称いわみんという平仮名で書いていわみんというような取り組みなんですけども、そうしたものがございます。昨年度、本町でも４つのプログラムが登録されておりました。歴史文化はもとよりですね、人だとか食だとか、そういったものに着目をして、何げないようなものの中からですね、例えばその手作業だとか農作業だとか地域の慣習、そういったものを一つのテーマにして、ある意味、誰もが取り組みやすいようなもの、そういったものを体験型のプログラムにして誘客につなげていくと、そういうふうな取り組みもございます。そういったことも一つの方法なのかなというふうに思います。町内、いろいろな方が持っていらっしゃる情報だとかアイデア、こういったことをヒントにしながら、先ほどインバウンドのお話もありましたけども、こういった地域の資源というのはやっぱり外国の方に受ける事柄だと思います。県全体のインバウンドでいきますと、やっぱりどこから島根に来られるかっていうとやっぱ広島方面からというゲートウェイが非常に大きいと聞いております。そういったところから、こういう体験プログラムそういったもので、関心を得るということもあるかなと思います。皆様が持っていらっしゃる情報、アイデアそういったものをヒントにしながら、今ある取り組みを発展させながら、また新しいものが出てくるようにですね、取り組んでいきたいと考えております。

議　長

７番石川議員。

７番
石川議員

はい、ありがとうございました。それでは最後の最後に町長にお伺いしたいというふうに思います。本町の観光振興にはですね、先ほど副町長の方からもありましたが、まずはですね歴史を学び研究し、一つの物語、ストーリーとなるような仕掛けづくり、これは考えてほしいと町長にはそういうふうに思っております。その上で、広域での動きも大切にしながら、本町の個々の施設が単独な動きをするのではなく、連携した取り組み、連携して取り組む姿勢、仕組みづくりが重要であるというふうには考えます。本町の山々と江の川、そして人々を十分意識した取り組みが進むことを期待いたしまして私の質問を終わりといたしますが、町長の観光にかける思いを最後に伺って終わりたいと思います。よろしくお願いします。

議　長

番外野坂町長

番外

議員ご指摘のですね、歴史に根差した取り組みですね、それを研究して広

野坂町長　げていく取り組み、このスタンスはですね私本当、極めて重要であると思います。全く同感であります。以前にこの場でも触れたことがあると思いますが、私就任以来ですね、毎月月曜日の基本的に第１月曜日のですね、全体朝礼ですね、町にまつわる、あるいは町で限定出来なければ、広く広げて県あるいは国全体のですねそういうですねその日にちなんだ過去にどういう日だったかということを触れてですね、その上でこういうような姿勢で仕事に取り組んでほしいということをすることにいたしております。今月はですね、昨日行いました。先週は関西川本会明けでちょっと大阪事務所に寄って帰った関係で、今週は６月１０日に行いました。その日に何を申したかと言いますとですね、今から４８年前、昭和５１年の６月９日、４８年前の６月１０日の昨日の日ですね、のことについて触れました。何を触れたかと言いますと昭和その一年前ですね、昭和５０年８月３１日に三江線が全通して、それ全通したのでそれまでは全通の期成ね、全線開通の期成同盟会だったのが今度、改良とかですね利用促進同盟会に同盟会の内容を変えた日がですね、昭和全通を受けて次の年の６月９日であったみたいな話をいたしました。ちなみに、そのとき思い起こしてみますと私自身、当時、高校でですね、三江線全線開通というのはですね、恐らく若手職員はその以前には三江北線、何線、南線があって何て知りませんですから、そのことも含めてですね、当時全通開通したの初めて三次から江津まで。江津から三次間の直通列車も出来た。これはその時も言ったんですが私記憶が定かではないんですが恐らく当時ですね、広島発三次で江津への快速がその間、設けられてたんじゃないかなと思います。また以降、歴史の綾でですねもうすぐ５年後には、今あのですね、国鉄再建法が出来てですね、６０年度の民営化みたいな話でちょっとその辺の話をし出しますと長くなりますので、そういうような話をしながらですね、やはり私たちの今のある、私たち今あるということは先人たち或いは、その更に前から歴史の積み重ねがあって今あると。それを点から面につなげてですね、将来どうあるべきかというのを考える。これがですね、私たちの王道であろうと思います。そういう意味では、話飛びますけども女子野球の取り組みをですね、以前にも交流の町であった。１００年以上前に三上 アイさんのああいう女性活躍の歴史があった。そして近年ああいう動きをしているので、次に迎えましょう。この向かい方はですね私たちがですね、将来の持続可能なまちづくりに向けての、これ極めて王道であると私自身思っております。そういうとこから職員に、そういうことを説明しながら私自身も学びながら向かう。そういう意味ですね、石川議員おっしゃったですね、歴史に根差してそれを研究してつなげていくというのは極めてですね、大切なことで私自身大切にしている施政であります。そのことから言いますとですねそのですね将来、これまでそういう歩んできた私どもの町がですねやっぱり歴史・経済・文化のですね、副町長も言いましたけど、議員もおっしゃいました広島とのですね、このつながりっていうのはですね、やっぱりおかれてきた歴史・経済・文化からすると、とても大切なですね将来向かうべき明るい

番外
野坂町長

展望がですね、この春ですね、広島広域都市圏に加われたということであろうと思います。今、そこにですね若手職員を実はですね、常設の研究会が出来ましたので情報発信の手法とかですね､そういったものを学んできてます。一代同じ経済圏の中でも求められるものがですね、やっぱ向こうから地方を求める、こちらから都市部を求めるってこの２６１号線を通じたですね交流というのは極めて太いものに今後なっていくと思います。そういったですね広域連携組織、今あるですね石見観光連盟の組織、それから江の川流域の広域連携組織、そういったことをですねしっかり連携してですね取り組みを広げていきたいと思います。なお、この地元でではですね、かわもと暮らしが、この春一般社団法人化されました。森川和友理事長がですね、就任なさいまして、より機動的な動きをしていただいております。より地元組織とですねしっかり連携しながら、先ほど言いました広域連携組織とですね、より緊密に連携してですね、川本にですね外からの誘客促進ひいては付加価値を呼び込んできて地域が活性化していくように､それで観光振興につながるように、しっかり努めてまいりたいとこのように考えております。
（「終わります。」議員の声あり）

議　長

以上で、「本町の観光産業の振興について問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、石川議員の一般質問を終了します。

々

ここで、暫時休憩します。午前１１時２０分より再開します。
（午前１１時１１分）